太宰管内志

壹岐之下

石田郡

和書門
二九六〇一 號
二〇二 函
九 架
八二 冊
類

内閣文庫
和書 類
二九六〇一 號
八二 冊
七 架

内閣文庫
番號	和	29601
冊數	82	(26)
函號	176	44

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

太宰管内志

壹岐島之下

筑前國人伊藤常足編録

明治十二年献本

○石田郡

延喜式に壹岐島石田郡あり。和名抄五巻に壹岐島石田伊之太とあり。初ハて伊波多と唱へなり万葉集十五巻にも伊波多野とあるをもとも和名抄の比おしなべて伊之太と唱へなりしを聞ゆれさまに是に随ひ侍○垂仁天皇紀三十四年ノ件に五十日足彦命是子石田君之始祖也と云事見えたり子字も地名の内に考ふべし名義ハ石の多き處なるにて負ひたるなり。姓氏録にも石田と云あり聞えぬやうに覺ゆされど和名抄九巻に筑前國怡土郡石田といふもあり

さて三代實録十七巻に貞観五年九月七日壹岐島石田郡人宮主外従五位下卜部是雄神祇権少史正七位上卜部業

等賜姓伊伎宿祢其先出自雷大臣命也同書廿一巻に貞
観十四年四月廿四日宮主従五位下兼行丹波権掾伊伎宿
祢是雄卒。是雄者壹岐島人也本姓卜部改為壹岐始祖忍見
足尼命始自神代供亀卜事厥後子孫傳習祖業備於卜部是
雄卜数之道尤究其要日者之中可謂獨歩（此人の譜系の事ハ對馬志下巻下縣郡雷命神社の件にも聊いへり）
とあり。又郡の大様は神祇式に石田郡十
二座（大三座小九座）天手長男神社（名神大）天手長比賣神社（名神大）弥佐
支刀神社。國津神社。海神社。津神社。與神社。大國玉神社。爾自
神社。見上神社。國津意加美神社。物部布都神社。和名抄九巻
に石田郡。石田。物部。箟原。沼津（已上四郷なり）寛知集に石田郡十四

村と云ふ名とあり。さて地圖を按ずれば石田郡は島の西方（一本ニ南トス）
に在て東西又南北とも二里に過ず。西北の（一本ニ西南トス）隅に三島有
て西東に連なり。西の方なるをハル島と云東の方なるを沖島
といふ中なるを長島といへるは最も小島にして人家なし（属とハきこえずなん）あれば又南方に一島あり網島といふ。又
西北の方に水門あり郷浦といふ。此属に領主の代官屋敷あり肥前國平戸より郷の浦まて
海上十三里あり 郡中を廻て田地すくなく島民唯奥塩乃利を以
産業とす。北より海辺をつたひて西南にまはればそれぞ船のり
くまればしまり北に黒崎あり是よりワらふ浦
に一里。ワタラより郷の浦に一里。郷の浦よりハヤ村に二里。そ
ぜと郷の浦との間に坪の浦あり坪の浦よりハぜに四丁。ハぜよ
り印通寺の浦に二里あり。此辺郡の西南の隅
なり印通寺よりすこし南の方に綱ヶ島あり
○天手長男（アマツタナガヲ）神社

延喜式十巻に石田郡天手長男神社名神大なり。天手長男は
阿麻乃多奈我表とよむべし手長は足長の意にて式八巻の祝詞
に天皇命能手長大御世乎などもありはえあへて負せる御名なり。さて
文徳実録二巻に嘉祥三年十月乙丑詔以壹岐島天手長男
天手長比咩両神列於官社。一宮記に壹岐島天手長男命、天
思兼神ノ一男也。和漢三才圖會八十巻に壹岐島石田明神在石
田郡一ノ宮村祭神一座天手長男命天思兼命一男などあり。又壹岐島
式社考文化十年江戸より測量方記録に天手長男神社、石田郡物部村田中
鉢形城にあり祭神は正哉吾勝々速日天忍穂耳尊。天手力
雄命。天鈿女命。已上三神なり御殿廊下拝殿石殿御饌殿御輿石

階七十四級あり社領十石。境内東西四十間南北三十九間。周匝
百四十間。山麓の周匝三百九十九間あり。定祭九月十六日
なり。さて鉢形と云は神功皇后三韓御征伐の時兜鍪の鉢
を収給ふ處なれば因て鉢形と云。延寶四年此處より古鏡
三面を堀出せり其内一面は八咫鏡なり今二面八圓鏡な
り其裏に湖州石家真錬銅照子の九字あり二面ともにありやいかならん
此處を八千乳角島城ともいふなりとあり又中臣秡一巻天手力雄神社壹岐
國石田郡奉中臣秡橋成乎と云事見えたりこは心得られぬきことなれど中臣秡を奉納して其銘書にたがへりしとかき
あらはし橋成乎と云は何の比までありける人にやたり常足按に此手長男神と云は古き世の書ともに
もなくて見えたる事なければいかなる神と云事はしらまされどもあまりに例しあはせる式社の中に名神大の列に

さくいまたはこちいえしきいさをはたし神なるこしにたひて
てはそく是御神も神功皇后の御時に功をあらしたまひて
其比よりやはりられたまひしなり

〇天手長比賣神社

延喜式に石田郡天手長比賣神社名神大あり。壹岐郡に手長比賣神社ありと
上巻に引る出たり文徳實録二巻に嘉祥三年十月壹岐島天手長比
賣神宮社に列給ふ事見えて上に引るか如し壹岐圖説に
天手長比賣神社在物部村田中。祭神栲幡千々姫命。稚日命。
木花開耶姫命。豊玉姫命。玉依姫命。已上五神也有内殿御殿上屋
廊下拜殿御饌殿壹岐神社云幡宮五所大明神。定祭九月十
三日。延寶已前称幡宮大明神又称五所大明神為式内境内
東西廿四間。南北二十間餘。周匝百十二間。とも見えたり

〇彌佐支刀神社

延喜式に石田郡彌佐支刀神社あり。御名の義は御崎門の
意なるへし。壹岐圖に彌佐支刀神社在志原村鳥山劔元所
祭日本武尊也。有内殿御殿上屋廊下拜殿御饌殿俗呼稱八
劔大明神壹岐神名記云彌佐支刀神社祭神武天皇延寶已
前称八劔大明神称式内竊考上文為神武天皇之説非也可
為日本武尊也故社記之説称劔大明神壹岐神社考云彌佐
支刀神社一座小此神景行天皇之御子倭建命也。定祭九月
廿一日。境内山東西廿五間余。社領四斗と見えたり。地圖に

按にはに志原村は郡南にあれども海辺とも聞えは。
なほ委しくは別件に云べし

○國津神社

延喜式に石田郡國津神社あり。國津は久尓都とよむべし。
御名の義は天ノ神に對へて云へばなり。和泉國大鳥郡國神社。伊勢國多氣郡國
乃御神社。越前國阪井郡國神神社などもあり。壹岐圖已下說ノ字に國津神ノ社在ニ渡を着く
良村中村宮丘ニ祭神脚摩乳命。手摩乳命。奇稲田姫命。健甕槌
命。已上四神也。有ニ内殿左殿古殿寶殿廊下上屋拜殿御供殿甕石ニ
定祭九月十日。又稱ニ青波加大明神ニ境内竪七十一間五尺五
寸。横五十七間五尺。周匝二百四十二間。社領高二石。とあり

なほ渡良村の事は別件に委くいへれば考ふべし

○海神社（ワタツミノ）

延喜式に石田郡海神社あり。海は和多都美とよむべし。古事
記には綿津見とあり。書記には少童とかけり○姓氏録には綿積とかけりさて三代實録二巻
に貞觀元年正月廿二日壹岐島從五位下海神從五位上と
あり。又壹岐圖に海神社在ニ箇城村海神川上ニ祭神豐玉彦命
有ニ石殿拜殿ニ境内東西一町十一間一尺余。南北一町廿間周
匝三町五十四間半。定祭十一月四日又云箇城村ノ内有ニ八幡ノ社ニ祭應神天皇。神功皇
后。仲哀天皇。仲媛命。玉依比賣命。武内大臣。延喜五年乙丑十
二月廿六日渡ニ神躰ニ有ニ内殿御殿拜殿御饌殿御輿殿ニ同本宮
八幡ノ社境内東西八十七間四尺。南北
七十九間半。周匝二百七十二間半。とみえたり此神を此

島に祭れる事も神功后后西戎御征伐の時の事に因てな
る故し其時に此神の功を成し賜へる事ハ八幡愚童訓又
宇佐宮記なとに見えて筑前志三巻糟屋郡志加海神社ノ件に
引出るもの如し。さて海神の事ハ彼件に諸書を引出て委しくいひたれハこの巻どもにハ只大方に
いふなり又壹岐郡に阿多彌神社あるも由あり。姓氏録に安曇宿祢海神綿積
豊玉彦神ノ子穂高見命之後也と有り又對馬島上縣郡和多都美神社名神大和多
都美御子神社名神大下縣郡和多都美神社名神大和多都美神
社と云もあり。神功皇后もはるかに大海を渡て西國の戎(エビス)と
もを討すへる事なまからなもゝ此島々すしてむ◯と此神
を祭賜ふむこゝそともある故し又次この巻ともにも引出るもの如く和多都美神社

八住吉社と同属にはし又八幡社と同属に祭れるなとゝ見えしある事ときこゆさて地圖を按ず
るに石田郡西南の隅に海神社あり此属筒城村なるべし
印通寺浦の東にあり海辺なり又其東ハ壹岐郡夕部諸吉村等な
り

○津ノ神社

延喜式に石田郡津神社あり、津ハ都とよむべし。御名の義
も此神海津にはせりと聞ゆ。壹岐圖に津神社在半城村牛
方津上岳所祭鸕鷀草葺不合尊、彦火火出見尊、豊玉姫命、神
武天皇、已上四神也有内殿御殿上屋拝殿境内東西十八間、南北
四十三間、周匝二百八間、定祭九月十日とあり。地圖を按ず

なる郡東に半城村あり其東は石田郡鯨伏村なり西ハ物
部村なり圖説によれは海津にはをは神にいあらは津ノ上岳とあれは此地名の津ハ別意あるへし○近江
國野州郡小津神社。加賀國荒城郡大津神社。

○與神社

延喜式に石田郡與神社あり。與ハ興を誤るか。今ハ興に造
なをらてよむへし。さて壹岐圖に與神社在壹岐郡
湯岳村興原。祭神。仲哀天皇。神功皇后。相殿三座誉田天皇。大
鷦鷯天皇。天手力雄命也。有内殿御殿廊下上屋拜殿御饌殿
壹岐神名記云興村興神社祭足仲彦天皇小神延寶已前称印
鑰大明神又称式内壹岐神社帳云久保頭興神社定祭八月

十三日。境内山東西二十五間。南北五十五間余。周匝二百五
十間。又有男池。女池。手長川。御神岳。社領二石。と見ゆるなり。此
説によりては與神社は石田郡の内にあらは式に石田郡にのせたるは誤なり
なは地圖に両郡の境鯨伏村の辺に與神社あり。其西に並
ひて角上神社あり。これなるへしかに考へて定めかねつれはなほし
きワをなり

○大國玉神社

延喜式に石田郡大國玉神社あり。大國玉は於保久尓陀麻
とよむへし。壹岐圖に大國玉神社在志原村田原。祭大己貴
尊。大后神。事代主命。菅贈相國。吉祥女。中将殿。宰相殿。已上七神也

有内殿御殿上屋廊下拜殿俗呼称田原天神。又壹岐神名記云大國玉神社祭大汝神。延寶已前称天神(又称式外)定祭九月廿五日。境内東廿三間半。南北四十二間。周匝百四十三間とあり。大汝神をも天神と称せし事あり又天満天神とようひて菅贈相國なとにいつる事ハ起れるなるべしさなくてハ聊も由なき事なり地圖を按ずるに大國玉神社は郡の西南に有て。彌佐支刀神社の北。手長男神社の南。角上神社の西。見上神社の東なり。

○尓自(ニジ)神社

延喜式に石田郡爾自神社あり。爾自ハ西の義なるべし。さて壹岐圖に爾自神社在長嶺村有安西村祭神級長戸辺命。級長津彦命。息長足姫尊。已上三神也有内殿御殿上屋廊下拜殿御饌殿定祭九月十三日。壹岐廻云爾自神社之宮地称西又此神社號東風大明神與伊勢風宮同躰而級長戸辺命也境内有東風石周圍三丈七尺六寸。神功皇后三韓御征伐之時祈順風以此石為目當境内山東西百廿六間南北百十間半。周匝三百五十八間。又有花川羽林松とあり。地圖を考ふるにハ有安村は郡北よりして黒崎浦の西の海辺なり。式に攝津國菟原郡大國主西神社。美濃國各務郡伊波乃西神社。若狭國三方郡宇波西神社。なとあるは西も同意にて負をとれるなり

○見上(ミカミ)神社

延喜式に石田郡見上神社あり。見上は美加美とよむべし。

三上の意なるべう　壹岐圖に見上神社在初山村若松岳辻祭彦火火出見尊有石祠定祭九月十日。當社祭祀上古四季有大祭自中古二季之祈年祭断絶九月一日祠官奏小神楽而已。此社地曰志原岳又書紫原岳或称岳辻とあり。なほ志原村件に云事をもかさぬべし　近江國野州郡御上神社

○國津意加美神社

延喜式に石田郡國津意加美神社とあり。國津を久尓都とよむべし。意加美は神代紀に靇とかけるは是なり。壹岐図に國津意加美神社在武生水村上武生水所祭素盞嗚尊稲田稲姫命大巳貴命已上三神也有内殿御殿上屋廊下拝殿御饌殿九月十五日有大祭其時神輿至江浦上古八安置御輿於御船石上云自肥前國呼子鎮田献上撤奥今自小崎献之當社西方有歳丘者其近辺称江上又社山峠有大石五此處称社旧地地形甚旧し。壹岐廻云國津意加美神社始称妙見社延寶已来改之壹岐神名記云國津意加美神社祭大汝神素盞嗚尊稲田姫命小神延寶已前称妙見社又称式内境内東西三十七間半南北三十四間半周囲九十四間社領二石とあり。始ハ靇一座の社なりしを後に三神をも合祭るなりなるべし。土地の大様なる後よりいふなるべし　三才圖會に壹岐島礒山権現在礒山祭神一座龍神聖天皇元亀年中現と

有○河内國茨田郡意加美神社

○物部布都神社

延喜式に石田郡物部布都神社あり。物部ハ毛のゝ倍とよむ也。壹岐圖に物部布都神社在物部村田中大野祭布都主命有石祠境内東西二十間余。南北廿五間周匝七十二間。

壹岐神名記云物部布都神社祭経津主命小神延寶已前称布都宮又式外也定祭九月廿二日。壹岐神社要覧云物部布都神社在物部村為経津主命之垂跡雖然天孫降臨之時天物部等廿五人同帯兵仗供奉。於其中有芹田物部布都留物部又宇麻志麻治命　世々孫伊莒連公者稚櫻柴垣宮御宇天皇朝成大連奉齋神宮下略依是等考此神因鎮座芹田上可為祭芹田物部之社又可為祭布都留物部之社歟云ことあり。地圖を按ずるに物部村ハ武生水村の東半城村の西にありて郡の中央なり。此村の内に芹田と云處あれバなほ考ふべし

なほ物部郷の件に云ふ事どもをも考へあはすべし

○石田郷

和名抄に石田郡石田郷あり。此郷名をもとりて郡名とし負せたるなるべし。又ハ石田郡の郡家を置かれたる處にて負せたるなるべくもあるべし。今ハ郷地詳ならず。万葉集十五巻の歌に伊波多野とい{ふ}邑ハ同所なるかなほよくうかゞふべし。（万葉集の歌ハ後に引出すべし）宗像文集に讓與草野次郎役所壹岐石田

十

郷薬師丸所職田畠山野等事右所領者長阿相傳領掌之間相副壹岐尼御前譲状所譲與于草野次郎役實也向後無他妨可被領知之状如件永仁五年十一月九日長阿同書に宗像大宮司氏俊代申壹岐島石田保内薬師丸地頭事度々被仰之處志佐濵田修理亮入道尚以違乱云々太不可然好而招其居歟所□不日停止彼妨沙汰に付下地於氏俊代可執進請取之状若猶不事行者可有殊沙汰之状如件永和四年二月廿五日沙彌判志佐男　殿

○物部郷

和名抄に石田郡物部郷あり。物部は毛乃々倍とよむべし。

駿河國益頭郡物部ハ毛乃々倍 名義は芹田物部の住めりし
處なれば、芹田と云處あれど、物に見えて上に引ける物部布都神社ハ此郷に在
をれとも起れる御名なれバ、神名によりて負せたる郷名にてあらざれバ、地圖を按ずるに石田郡物部村を今郡の中央に有て、東に半城村、西に武生水村あり。

○箟原郷

和名抄に石田郡箟原郷あり。箟原ハ何か詳ならず。玉篇に箟同䈉又同箘箘奇隕切竹名說文箘簬也一曰博棊又音囷桂也とあれバ、小竹の名とあれバによりて多加波良とよむべし。又篦の誤とせんか。さもとも是ハ玉篇に方迷切

釵箟也とあるハ由なし又思ふに箟の誤りなどあらむか玉篇に箟ハ蒲弥切籠也とあり又一ッおもふに篦の誤りなるか玉篇に篦ハ是茲切竹有毒而傷人即死とあり是字の音を志原村のことに借て書ける也ならむ猶よく考ふ可し和名抄に伯耆國八橋箟津又安藝國佐伯郡種箟あり

○沼津郷

和名抄に石田郡沼津郷あり沼津ハ奴万豆とよむ可し名義ハ廣沼のある處にて負せる成可し此郷地も今ハ詳ならぬ地圖などみるも似よれる名を聞えず

○石田野

万葉集十五巻に天平八年丙子夏六月遣使新羅國之時使人等云々到壹岐島雪連宅滿忽遇鬼病死去之時作歌一首并短歌

須賣呂伎能。等保能朝廷等。可良國尓。和多流和我世波。伊敝妣等能。伊波比麻多祢可。多大未可母。安夜麻知之。家年安吉佐良婆。可敝里麻左年等。多良知祢能。波波尓麻于之弖。等伎毛須疑。都奇母倍奴礼婆。今日可許年。明日可蒙許武登。伊敝比等波。麻知故布良年尓。等保能久。伊麻太毛都可受也。麻等乎毛。登保久左可里弖。伊波我祢乃。安良伎之麻祢尓。夜杼里須流君

又歌二首

伊波多野尓夜杼里須流伎美伊敝妣等乃伊豆良等和礼乎等波婆伊可尓伊波牟

與能奈可波都祢可久能未等和可礼奴流君尓也毛登奈安我孤悲由加牟

右三首挽歌とあり。さて肥壹名勝志に石田郡石田野在郡東にとあり伊波多石田も同所なれば。もしさもあらむ伊波多ぞいはれ讀さぬなるべし。此石田野の事ハ地圖などにも見えず今ひとときてくはしくわからむべきあらぬほし
きりはなりより國府の件にも聊考へつれば　きてらし見給へし

○國府

和名抄に石田郡國府。拾芥抄に石田郡府とあり。常足按にふに國府旧地は今の郷浦の辺武生水村に代官屋敷と云物のあれば属ふなるべし是筑前肥前とよりのわたり口にして水門も甚よろしき處と聞ゆ。されば地圖に壹岐郡の内に國分村ありてそこに月讀神社國片主神社などもみえるは此國分村は國府か國分寺かの跡なれば是よりぞ和名抄のうへ遠いるに似たれども又地理の事をよらずして定めがたし　次には國分寺の件をもよむにあはせみるべし

○島分寺

玄蕃寮式ニ壹岐島直氏寺為島分寺置僧五口。主税式ニ凡
壹岐島島分寺法會布施供養料稲一万二千九百七束一把
一分五毫最勝王経料一千八百八十七束五分五毛。吉祥悔過料三千三百六十四束二把。崇道天皇春秋讀經
料八百束。安居雑用料六千九百十九束八把六分。太宰府以管内諸國正税通計以充
行筑前國八百八十束。肥前國二千七百六十六束。肥後國三千六百廿束九把一分五毛。豊後國三千九百四束。日向國
一千八百束。と見えたり。又續紀十三巻ニ天平十三年二月毎國僧寺施封五十戸。水田十町。必令有二十
僧其寺名ニ金剛明四天王護國之寺。また今本類聚三代格ニ齊衡二年十一月九日太政官符云應置對馬島講師事。右得
太宰府解偁島司解偁民部省去十月十六日符停止大隅薩摩對馬壹岐多褹等國島講師自尓以降百餘歳徒有島分寺
曽無修善根空聞六時之鐘声未見一乗之説法方今大隅薩摩壹岐等國島依旧各置講師始勤薫修望講此國島亦講師
令修御願其供養以國官料不仕人粮内因準品官毎月充粮二斛五斗但法服布施料準壹岐島以陸地物彼府充者府解
狀謹請官裁者右大臣奉勅依請但依承和十一年四月十日格以彼府管内僧選補とも見えたり　此島分寺
以上にも云ふ如く壹岐郡内に國分村あれば其處なるべ
くされどもこれは國府と同處にあれば例なれば此郡
内に擧げ。是等の島には官社なども正しく傳はれるが多
けれど今なほし此島分寺とも國分寺とも唱へ来れば
ずなりてもあれば廃しはて國人もとひさゞるも廃し又寺
跡をも廃したれば寺地をも廃したればなりといふこともある
廃しての國分村なども後世に國分寺をうつしたる所より
起これば名ありてもあるべし又古より石田郡の地なれば後
世に郡界をかへたるにや地理をしらざれば考へ
てもかゝる事なほあるべきなれど知りがたし

○尼寺

續紀十三巻に天平十三年二月云々毎國尼寺水田十町一
十二尼其寺名為法華滅罪之寺。あり今本類聚三代格ニ天平神護二年八月十八日官
符云一國分尼寺先度之尼十人後度之尼十人合廿人布施
供養同為一法准先十尼之中一人死闕即依先勅早滿彼数
仍國司國師共簡定申官待報符行。など見えたり此寺の事も
但復後十尼者不豫此例云々
心もとなく考ふべきなりけれど僧寺尼寺同處にある
べき例なれば此處に擧て後の考へをもまうけるなむ

○古仇音夫郷

海東諸國記に壹岐島古仇音郷源経主之巳丑年受図書約
歳遣一二船称上松浦塩津留助次郎源經とあり。古仇音夫ハ
國分なり。音字ハ音のみをとりて置たるにて唯助の如くに用ひたる處多し ツホを頭音市又對馬のクス
ボを仇愁音夫など
なける類なり 是古の國府のありし所なりといふ名と
聞えたり國府件に聊あげつらへるが如し

○時日羅郷

海東諸國記に壹岐島時日羅郷ハ呼子鴨打分治各有代官と
あり時日羅ハ今の志原なり。和名抄の篦原もこれをいふか 志原村ハ地
圖に見えざれども圖説に彌佐支刀神社ある處を志原と
あるぞ郡の西南印通寺の辺と見ゆ。そこに大原村とよるを誤る志原をなまりし
るなるべし

○牛時加多

海東諸國記に壹岐島牛時加多一百三十餘戸とあり。牛時加多ハ

今の半城村の内なは牛方をいふなり。半城村の事ハ津神
社件にもいふるか如く郡東にして壹岐郡鯨伏村にあるへし。
牛字の事ハギウのいふ名グなるもそれ
をうしこまてウとも唱ふるなるへし

○因都温而浦

海東諸國記に壹岐島都温而浦四十餘戸とあり。因都温而浦ハ
今の印通寺浦をいふなり。住吉神社の北西にあり。南の海
中に網ケ島とて小島あり。圖説に八幡とあり印通寺へ一里
半あり印通寺浦とまたゼノ浦へ二里あり。

○無山都郷

海東諸國記に壹岐島無山都郷鴨打代官主之。又同書壹岐圖件
に無山都郷とあり辺に指肥前上松浦とも見え無山都ハ
石田郡無生水村をいふ 山ハ生を誤るか。又元より生をことろサとろ聞誤りてサの假名に
山ノ字を用ひなはなてもあるへし 無生水なれはそち肥前上松浦への渡口
なれハ地圖に此處に代官屋敷と云物も見えたり此處西
よりま東に深くいりこみたる水門にて甚船かゝりのよき
しき處と聞ゆ 郷浦も此辺にあり

○毛都伊浦

海東諸國記に壹岐島毛都伊浦一百戸とあり。又同書一岐島
圖に毛都伊浦自風本至此五里とあり。さて日本輿地圖に
壹岐島郷の邊にモトクロと云處見えたり是なるへし。諸

國記圖にも無山都郷の處に擧たりモトクロと云ハいかなる由の地名とも志れがたけれど毛都伊といふにクロの二字を着きたる名なるべし。伊ノ字ハなぶかれくそへたるもの如くましてよむまじきなりそは例の對馬の世伊浦などそのほかにもおほし

○頭音甫浦（ツボ）

海東諸國記に壹岐島頭音甫浦四十餘戸とあり。頭音甫浦ハ地圖に壺浦とあるは是なり。ハゼより坪ノ浦へ四町ともあり無生水よりハ西の方にあたりて壺坪又となれるは故として海か山かのとりめぐらしたる處にして一坪の處なるから。なほよくうかゞふべし

○船越浦（フナコシノ）

海東諸國記に志岐島訓乃吉時浦四十餘戸同書一岐島圖に訓乃吉時浦などあり（初に吉とあるハ古の誤なり○訓ノ字をフとよむ事は上巻布氣村の件にも云へり）如し。さて船越と云處ハ尚詳ならねど諸國記の圖にワタラのあたりに擧げたれば石田郡なること疑なし。さて地名も今に傳はらねども此郡内にして兩方に海をうけて其間小船などひきこすべき處あらばそこなるべし。船越といふ事の古例も筑前志一巻志摩郡船越ノ件に云るを考ふべし對馬島にも大船越小船越とてあり考ふべし

○渡良浦（ワタラノ）

海東諸國記に壹岐島臥多羅浦百餘戸とあり。臥多羅ハ則渡

良なり。卧ハ音クロなれバそのつゞきのワを假字に用ひたるなるべし。地図に無生水の西北に渡良村渡良崎あり。此西北の海中に沖ノ島長島ハル島つらなれりさて是を渡良といへバ沖ノ島長島などに渡る處なれバ名負ひたるか。又は肥前松浦辺にある渡口なれバ名を移せるか。又和名抄に初島をも万多良といひけむを後に和多良といふか。地図ハぜよ里郷ノ浦へ二里郷ノ浦よりワタラへ一里とあり

○無也只也浦

海東諸國記に壹岐島無也只也浦一百四十餘戸とあり。是ハいづくにあらむやいまだ考得ざれども諸國記の図に臥多羅と仇老沙只との間に擧られたれバ石田郡ノ内なる事たがふべからず。

なほよく考ふべし。地図を按するにワタラと黒崎との間に有安村カミ村此二村を記せるのみ

○黒崎浦

海東諸國記に壹岐島仇老沙只浦二十餘戸とあり。仇老沙只ハ地圖に石田郡黒崎浦あれバ是なり。いかなれバ由まで負をいふ。汝名ならむ諸國に多き地名なり。地圖にワタラより黒崎に一里黒崎より湯元へ二里とあり

○即可五豆郷

海東諸國記に壹岐島即可五豆郷呼子鴨打彡治各有代官とあり。即可五豆ハいかにもあらむいまだ考へず。此字など誤りあるべし。あはれ諸國記の圖に仇老沙只と千羅千米との所

に擧られど石田郡内なる事ハうたがひなし。なほよくかむがふべし

○千羅千禾浦

海東諸國記に壹岐島千羅千禾浦五十餘戸とあり。千羅千禾ハ何ぶりにても心得らるゝけれど諸國記図の趣此郡内ときこゆれど此處に擧て後の考へをまつるなむ。おもひて云を見目浦をさしひらきてかけるにもあらぬか。又禾字を誤て千とかけるか。又千ハ千を誤るにて唐神といふことか。未を禾に誤る事は此書に例多し 黒崎有安の西南にカミ村あり。是にてもあるべしなほよく考ふべし

○毛而羅

海東諸國記に壹岐島毛而羅五十餘戸とあり。毛而羅ハいかにもむかしや心得がたし。モミロなどよむにやをもとも諸國記図の趣石田郡内と聞ゆれどおぼつかなく此處にあげて後の考へを俟ちるなむ

○優通驛

兵部省式に壹岐島驛馬優通各五疋と見えたり。優通は宇都とよむべし。名義ハ何とも考べきなし。此驛趾も今ハさだかならねど必國府のつかたにあるべきにつきなれどおそらく此郡内にあらむにて後のかむがへをまつになむ。たゞし

なふに式の文に各五疋とあれど驛名の今ひとつふなら
ぬあまけむに書きらしたはからし旨各と云字を由くま
なくにほくそへつはにてもあはべし。又およみに優通を由都とよむべき
に弓月を優通とかきましこと物に見えねしやうにおほゆるをも優を呉音ウるもおなはウとと那へなるなる
ぬ尚をはべし

太宰管内志第四稿

壹岐島下巻 畢

追次考

○見目浦

古今和歌集に清原深養父

満潮の流干ば間を逢ひしに見目浦に寄るをこそ待て

扶木集に前中納言定家卿

自見目浦に立ッ煙風をしは思の道をはこの那し。

新後撰集に西園寺太政大臣

問ばやなぶ見目浦に住ム海人の心の内に物やおもふと。

かふともあま。又名寄懐中抄に壹岐島見目浦あり又肥壹名勝

志に壹岐島海松和布ノ浦在ニ郡東北浦口一向レ西日本鹿子作ニ見

目浦ともあれ名勝志に何郡.件に擧られたるハ元本を
見もせず詳ならぬ故に暫く是を追次考の部にのせて人
の考へをまつにや.思ひてはなほ名勝志に向.西とあるハ
其上肥前とよりの渡口なるもと石田郡江浦かにはなるべき
になほ次なるは班島.件考合すべし

班島（ヘタラ）

名寄に壹岐島班島あり又懐中抄に壹岐島見目.浦.哥に
海人の苅見目.浦の白雪の班島にはふれるにやあらん耶.
ともあれ.岩石なとの黒白まじり是も上に云ふ如く江.浦の
なる見ゆ所なるか
かゝるあるべきに.此方の島も多し.沖.島長島（なまと なまり）又海路記に

いふとかに班島は肥前國苅屋.星賀.の沖の島なり此島今
も馬牧あれ故に馬渡島とかくなれ.名寄にも班島と書て
壹岐島の部にいれるもあれと見えるもハ壹岐にあれとする
は非なれば.されどもこしるもかしこるも同名の地あれ
ばしきにもあらん.さて是も壹岐島.内にして何れの郡内
ともいふにやあらしかなれば證を見るもハしばらく此處に擧
て後の考をまつになむ

引野（ヒキ）

古今和歌集にとことひとしらず
梓弓引野のつゞら末終に我思人にことのしげけむ.

續後拾遺集に土御門院小宰相

誰方に心をよせて梓弓引野のつゞらくは末あるをたのみつゝ。

源有長 是も續後拾遺集の歌なればこゝに

梓弓引野のつゞら絶ゞに来ル人めのむ末をまつの那し。

夫木集に後久我太政大臣

そのかみにも哀と思へ梓弓引野ゝ夜半のさをしかのこゑ。

ゑあまさて肥壹名勝志に壹岐島引野在郡東北叢野也和爾雅。三才圖繪。八雲御抄。夫木抄。皆云在壹岐と見えたり是も壹岐島にして何れの郡にあるも名勝志元本を考へてしるし故今此處に挙て後の考をまつるなり

○壹岐志今按

今按ずるに巻末に挙たる三の名所どもさだかならず以て其神社佛寺名山大川なとをもはじめとして郡郷の名其外郷曲の内にこもれるほのけまでをも考へ又土地の高低方角又道路の遠近曲直又は海島の大小泊船の地あるは其山海の名産奇品あるは八郷里の俚諺怪談のたぐひまでしもらさず事あまくひろくひろくさとりしも其考へ記説もくはしく記さむとせしの事ども見えねはし近き國國の他書の古への人の中にもひろくとりて書きつらね其志せる人は侍らばさく取しもとまるべし　こ

まもうはちゞの事くはしくしるせるふみといふも都
くるましくあはれをおぼし世にひろまりぬるのみならず
ひのくにも唯あまりしけぬしのこしてわしあそびまゝく
は事がちにならむを見方角などのへ多くは画け
賤そこのふみをひらけ見むひとかきそへたるもそのあや
ほまを正しからぬ画くなむなほこの後に心をつけまてよ
この島々のことを記せるふみに見えたりあまた其説をとりて
ひろひとめいくるひろもかきあつめ見むと序よりて此島
人ともの志はりけの家々に知るもわきて大奥をとは時個
ほりの人あはれほまてくおぼし見つらしまつらとかきもちと都

はやしこの神わたりの人よまきしてくはしくかきつたへけ
ましを近き比その稱をうしなひたまひそこなひいたはしく
そらしけるにかねてのをしへにてその事知る人よきつるゝ
見そうゝはつとまぞえもとまらしかるはほしくなむ

○海印寺

豊鐘善鳴録一巻に豊前州宝覺寺無隠禅諱元晦姓大蔵本
州田河郡弓削田郡人也云々有謌董南禅干時壹州創海印
寺後改安國請印為第一世

仙巣稿中巻に壹州安國之徒有佳衲子諱曰圓請予之雅其
号仍稱日江漫賦一偈祝遠大云○蝦蟇吞却廣寒宮吐露将

来流向東水底波斯穿鼻孔天香吹下不犀風といふ是に依て按するに此國にも安國寺ありと聞ゆ重て國人に尋ぬへし

壹岐志後序

掛巻母畏伎日本根子天津御代豊國成姫天皇乃大御代國々尓仰世弖風土記乎奉良志米賜比志乎世々乃乱尓散失弖今世残在波出雲國而已尓志弖全可良奴波最毛最毛惜牟倍幾事尓曽有介留爰尓吾友伊藤常足主若在志從古今之書乎廣久見深久考閑弖往昔太宰府乃管領礼留筑紫之國々壹岐對

馬万傳乃古事抒毋能物尒見衣多留乎書集米又
後世乃人等乃考置留毛与久見豆与志止思波留
々波加倍羅礼多留毋有豆百不足八十許乃巻止
波成奴斯而是乎太宰管内志登名亘久此處能國
々之事乎考合年尒波何礼乃書欲是尒増良年爰
尒壹岐島之事書在二巻波已尒端書志豆与止有
尒因豆又殊更尒閑見留誠尒米傳多伎　御世ニ
生而名尒高伎荒津之海乃深支御恵乎蒙布留驗
尒邪理及流猶國之名尒負雪島能幾年積留等毋
此書乃消失受志豆傳波良年事乎乞祢具心尒負
邪奈伎言乎毋書記都

天保十二年十月

岡崎勝海

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan